防災だより

NO.1 (2012.6)

■ 桜ニュータウン自主防災組織
知識普及部会

ごあいさつ

防災長　金子和雄

このたび，桜ニュータウンの災害の軽減・防止を目的とした自主防災組織が設立されました．この組織は桜ニュータウンの住民の方々全員が協力し合って，安心・安全な街をつくることを目ざして活動を行っていきます．

その活動の成果をもとに，住民の方々の災害対策に少しでもお役に立てればという趣旨で，「防災だより」を創刊しました．

自主防災組織とは

自主防災組織とは，防災対策の憲法ともいえる「災害対策基本法」の第５条に「地域住民による任意の防災組織」と規定されており，全国の県や市町村は自主防災組織の組識化を近年積極的に進めています．

その背景には，平成７年に起こった「兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）」があります．この地震による死者は六千人を超え，その多くは倒壊した家屋の下敷きによるものでした．

一方，倒壊した家屋などから救出された人のうち，約80％は自力と家族や近所の人たちに助け出され，消防などに救出された人は約５％であったという報告があります。このように大規模な災害になると，消防や市役所などの公的機関が機能しなくなることは，昨年発生した「東日本大震災」でも我々は経験しました．

このため，自分の身は自分の努力で守る（自助）と，隣り近所の人々がお互いに協力し合いながら防災活動に取り組む（共助）の必要性が見直され，その活動の中核となる自主防災組織の重要性が改めて認識されるようになりました．

なぜ桜ニュータウンに自主防災組織が必要か

阪神・淡路や東日本大震災のように，災害の規模が大きくなるのに比例して行政機関の対応は，地域住民の細部にまで行き届くのに時間がかかります．このようなことから，災害の発生から行政の支援が期待できるまでの３日間程度は，地域住民による自助・共助への取り組みの重要性が増します．

桜ニュータウンの人口は1,380人で，平均年齢は約63才です．さらに65才以上の高齢者は400人と人口の約29％の割合を占めています．この現状を防災対策という点からみると，住民の高齢化対策とそれに伴う平日の昼間に災害が発生した時の活動要員の確保は大きな問題であります．

このため，住民の一人一人ができることと，隣り近所の人々が役割を分担しながら，力と心を合わせて助け合うことが大切になります．そこで，桜ニュータウンンの自主防災組織では「自分の命は自分で守る」，「我々の街桜ニュータウンは住民みんなで守る」という理念の基に，桜ニュータウンの住民が全員参加して防災活動を行うことにより，桜ニュータウンを安心・安全に暮らせる街にしたいと考えています．

● 家庭での地震対策（1）　家具などの転倒・落下防止と避難経路の確保

家具の転倒による被害をなくすために，タンス，食器棚などの家具は，あらかじめ動かないように固定しておきましょう．また，どちらの方向へ逃げるかを考えておきましょう．その経路にはなるべく物を置かないように気をつけましょう．

- □ 寝室，幼児，お年寄り，病人のいる部屋に，たくさんの物を置いていませんか
- □ テレビや人形ケースなどを家具の上に載せていませんか
- □ 棚の上などに，重い物を載せていませんか
- □ 火元近くに燃えやすい物はありませんか
- □ 避難通路上に，割れたガラスが飛び散らないですか
- □ 玄関など外への避難路が，家具の転倒で塞がれませんか

◆ 講演会のお知らせ

日　時　　7月14日（土）１３時 ～ 15時
場　所　　広岡交流センターホール（１階）
テーマ　　東日本大震災を経験して ― 地震，その時どういう行動をするか
講演者　　桜井正昭（つくば市消防本部中央消防署長）

◆ アンケート調査への協力のお願い

近日中に，防災計画の立案に必要な基礎資料を得るため，アンケート調査用紙を配布しますのでご協力をお願いします．